

第4回審議会における主な御意見

資料1

■出会い・結婚期、妊娠・出産期

意見	
1	婚活マスターの数を増やすことと、活動の質を向上させてほしい。
2	若い男女が生きづらさを抱える中で、望まない妊娠をした時の対応、特にメンタルヘルスに対する取組を充実してほしい。
3	明石市のおむつ配布による虐待の未然防止はおもしろい施策。救いを求める声を出せない家庭での虐待の未然防止、早期発見する仕組みづくりが大切。

■保育・幼児教育期

意見	
1	保育士のワーク・ライフ・バランスの向上が急務となっている。そのためにも、保育人材の確保対策の拡充に努めてほしい。
2	子どもが熱を出したら、保護者が家に帰ることが出来るような社会環境に変えていくべき。
3	保育所の児童転落事故を受け安全面等に係る保育のリスクマネジメントを府が主導してほしい。

■子育て期

意見	
1	重点施策4「子育ての環境づくり」の項目(2)「地域の子育て力の強化」で、②「学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみの子育て支援体制の充実」とあるが、「地域」には保育所・認定こども園・幼稚園は含まれているのであれば明記願いたい。
2	家族の絆や地域の人たちとの支え合いを肯定する教育が、幼少期からなされることが大切。その前提があって、個々の家庭のニーズに合った保育等が実施されるものとする。
3	ひきこもりに対して学校・家庭・地域が連携して支援することが必要。
4	ひきこもりの方にアプローチしようとしても、プライベートの問題からなかなか立ち入ることができていないと感じている。家族を含め相談できる窓口の広報・周知に注力すべき。
5	発達障害等に関して、幼稚園から小学校に上がるときの支援は手厚いが、小学校から中学校に上がるときの支援は少ないと感じている。
6	医療的ケア児への支援については、障害児の計画に入っていると思うが、在宅支援についても本計画に盛り込んでほしい。
7	子どもの最善の利益を守る視点から、里親に対する支援体制のさらなる拡充をお願いする。

■子育てにあたたかい気運の醸成

意見	
1	重点施策1「子育てに対する意識や行動変容の促進」の中で項目(3)の見出しは「若者の結婚や子育てに対する意識・行動変革」となっているが、若者だけでなく、子どもや児童生徒に対する項目も含まれているので、それがわかる表現に変更してはどうか。
2	重点施策1「子育てに対する意識や行動変容の促進」の中で項目(3)「若者の結婚や子育てに対する意識・行動変革」、②「学校と地域・NPOが連携し、児童生徒が日常的に乳幼児とふれ合う機会の充実」で、「次代を担う中学生・高校生が乳幼児とふれ合う体験等を通じ、家族の大切さや妊娠・出産・子育ての意義を学ぶとともに、ライフデザインの重要性を認識する機会を設けます」という文章の「妊娠・出産・子育ての意義」という言葉からは、大人から子どもに指導するように感じるため、「妊娠・出産・子育ての大切さ」等にしてはどうか。
3	「ワークチェンジ塾」について、座学だけでなく、子どもとともに父親が学ぶような体験型のプログラム等の内容も検討してはどうか。そうすることで、子ども自身が父親になったときに、子育てに自然に参加できることにつながる。
4	市町村職員の働き方について、母子保健・子育て部門の労働時間が増大している。保健師等、特に専門職については採用が難しい状態が続いており、子どもの数に応じた適正な人員配置が可能となるよう国に要望をお願いします。
5	若者が人生設計を考える環境整備としては、多様な手法が考えられるので、「ワークショップ」などの文言を「キャリア教育」という手法を表す文言ではどうか。
6	仕事と子育ての両立体験インターンシップの体験者数は少ない。多くの若者が将来を描けるよう、各大学には大学間の単位互換制度など、学生が興味を持つ仕組みづくりを期待したい。
7	子どもに対する妊娠及び出産に関する教育としては、「医学的知見に基づく」ものだけではなく、ライフデザインを描く上であらかじめ知っておくべき知識や情報について、しっかりと身に付くよう伝える必要がある。
8	様々な職種の人が個々に情報等を発信すると、まとまりがなくなり受け手が混乱することが懸念される。医学的知見に基づく情報等も重要と考える。
9	子育てに関し、「しつけであっても体罰禁止」と明記された児童虐待防止法の改正(R2.4)に対応した文言を入れてほしい。

■その他

意見	
1	計画の推進に当たって、府民にとって一番身近な相談窓口は市町村。それがわかるよう書きぶりを工夫すべき。
2	行政がパッケージを全部作って府民に提供する、といった印象がある。未来の当事者である若者たちが自ら考え、行動につながるような記載を検討できないか。
3	行政だけでなく、府民、地域、企業等とともに、みんなでこの計画を進めていくことを、強調すべきである。